

『全国有機農業の集い in 福井県越前市』大会アピール

“いのちを育む有機農業、人と自然の共生を求めて”

昨日東北太平洋岸地域を襲った大地震、大津波により亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

このたび『全国有機農業の集い』が、福井県越前市で開催されましたこと、有機農業に取り組む農家としてうれしく、ほこりに思います。

2009年度に福井県で全国植樹祭が開催されましたが、本県には全域で原生林や歴史ある銘木が数多く残り、また清水(しょうず)といわれる名水や湧き水があちこちで見られるなど、いのちの源である豊かな水にも恵まれています。このような豊かな自然環境は、県全域が有機農業に取り組む上で、恵まれた条件と考えられます。

ところで、皆様は宮崎駿監督の映画『となりのトトロ』をご存知でしょうか。この映画で描かれています田舎の田園風景や農作業の様子は、まさに日本農業の原点の姿であり、人々の心和む日本のふるさとの原風景そのものです。今回の現地研修地区もこのような雰囲気そのものの農山村です。そして全国からお越しの皆さんのところにも、こんなすてきな農村の風景や、農業の営みが数多くあると思います。このような農業、農村を未来の子どもや孫たちに守り継いで行きたいと思いませんか！それが訴えの一つ目です。

次に、すてきな風景を守り継ぐ方法として、持続可能な農業で、農薬や化学肥料に依存することなく、自然のものを使用した栽培により、健康によく、自然環境にも優しく、生き物との共生を可能とする有機農業の実践があります。

今日お集まりの方々は、有機農業や生物多様性への関心が今ほど高くなかった時代から、ご自身やご家族の農薬への不安や、愛する子や孫のすこやかな成長を願い、持続的な農業を目指し、熱い思いに駆られて有機農業に取り組んでこられました。

これからも、みなさんとともに有機農業を実践し、その輪を一層広げることで、日本の農村、農業の原風景を守り続けていきましょう。これが二つ目の訴えです。

昨年、越前市には40年ぶりにコウノトリの飛来があり107日間滞在しました。また越前市近郊の里地、里山には、全国的にも希少種で棲息分布が限られているアベサンショウウオをはじめ、日本全国で数を減らしているメダカやゲンゴロウ、ゲンジボタルなどの生き物が見られます。これらの生き物たちは、生きているということにより、人間対しいのちのあり方や大切さを教え、自分達の住む地球環境の大切さから健康や未来の子どもたちのことまで、様々なメッセージを伝えてくれます。

“いのちを育む有機農業”を通じて、これら多様な生き物を守り、共存していくことが、地球環境の保護となり、人のいのちも育み、“人と自然の共生”につながるのではないのでしょうか。これが三つ目の訴えです。

最後に“いのちを育む有機農業、人と自然の共生を求めて”のテーマの下に集まった私たちは、日本の農業、農村の原風景を子や孫に伝えるため、あらゆる生き物のいのちの大切さを訴えながら、それらを守り育てる有機農業を広め、深め、人と自然の共生を目指して、今後も連携しながら取り組んでいくことを誓い、本大会のアピールといたします。

2011年3月12日

『全国有機農業の集い in 福井県越前』参加者一同